

現場を支える実践的人材を育成 ものづくり大学

どんな大学？

国内唯一「技能工芸学」の学位を授与する
4年制の私立大学

ものづくり大学は高い技能を
備え現場を知っているマネー
ジャー・技術者を育てている。

国・自治体・産業界・労働界の支援を受けて2001年に開学

2学科

情報メカトロニクス学科
建設学科

40日間

インターンシップで
企業の現場を体験

60%以上

授業の6割超が
実習・実験科目

5,000人超

開学以来
卒業生を輩出

JAMとのつながり

開学にはJAM初代会長・服部光朗氏が携わる。現在も
卒業生がJAM加盟企業を含むものづくりの現場で活躍。

卒業生の
紹介記事



ものづくり大学と企業とのつながり

教育・研究で現場とつながる

実学重視
産業界との連携

ものづくり大学は、教育・研究の両面で産業
界や行政・地域との連携を重視。

企業と学生の双方に価値ある産学連携

教育面

企業の技術課題を
卒業研究テーマに

学生が実際の技術課
題解決に挑戦

企業のメリット

現場課題の解決
若手育成にも

技術課題の解決や研究
室とのネットワークづ
くり、若手社員への
刺激にもつながる

研究面

技術相談から
共同研究まで

「こんなことで困っ
ている」という段階
から相談可能

相談窓口

内容に応じて適切な教員や研究室を紹介し、技術相談・
共同研究・人材育成など最適な連携方法の提案が可能。

ものづくり研究情報センター

TEL : 048-564-3880
Email : mric@iot.ac.jp

学長からのメッセージ：ものを創る人と、その人をつくるもの

「ものを創る人」すなわち技術者・技能者とは、単に何かを形作るための技を身につけた者のことではありません。ものを形作るうえで技術・技能は必須ですが、新しいものを「創り出す」ためには、ニーズを感じ取るセンスとそれを実現するアイデアを併せ持つ必要があります。また情報伝達や技術の発達が飛躍的に速くなった現代においては、情報収集・分析能力がより一層大切になっています。

これらのスキルやセンスは「ものを創る人」を目指す者個々人が培うことができます。本学においても技術者・技能者を目指す学生たちにこうしたスキルやセンスを教授しています。しかしこれだけでは真の意味での「ものを創る人」の育成には不十分だと私は考えています。

「ものを創る人」をつくる「もの」がさらに必要で、その「もの」とは彼ら彼女らのプライド・矜持の源泉とな

る社会的認知・評価ではないかと思っています。「ものを創る人」がスキル・センスを磨いてより良いものを創ろうとするのはプライドがあるからで、そのプライドを掻き立てるには周囲からの認知・評価が重要です。

昨今の日本では、高度な技術者・技能者を認知・評価する雰囲気少し希薄になっている気がします。スキルやセンスを身につけた人を「ものを創る人」たらしめる認知・評価の気運が社会に再び高まってくれることを切に願っています。こうした面でもJAM組合員の皆さまと共に取り組んでまいりたいと思います。



学長 佐藤 勲